

# ワールドワイド携帯電話四半期動向

2007年11月2日報告

## 2007年3Q(7-9月)調査結果 目次

1	2007年3Q(2007年7-9月)結果の要約	3	6.4.	中南米	22
2	地域別累積加入推移(四半期別)	7	7	主要モバイルインフラメーカ	23
2.1.	BRICs(中国 インド ロシア ブラジル)加入推移	10	8	端末需要動向推移	24
3	方式別加入推移(四半期別)	12	8.1.	2007年3Q(7-9月)需要動向	24
4	2007年加入者予測	15	8.2.	地域別販売動向	28
4.1.	地域別	15	8.3.	2007年メーカー別需要量予測	29
4.2.	方式別	16	9	Nokiaの2007年3Q動向	31
5	主要オペレーター加入者数推移	17	10	Motorolaの2007年3Q動向	34
5.1.	アジア	17	11	Sony Ericssonの2007年3Q動向	36
5.2.	西欧	18	12	Samsungの2007年3Q動向	38
5.3.	東欧	19	13	LGの2007年3Q動向	41
5.4.	北米	20	14	5社以外の2007年3Q動向	46
5.5.	中南米	20	14.1.	欧州メーカー	46
5.6.	中東/アフリカ	21	14.2.	日本メーカー	47
5.7.	主要オペレーター加入者数推移の世界全体に占める推定比率	21	14.3.	その他	48
6	地域別オペレーター最新動向	22	15	端末向け部品需給状況	49
6.1.	アジア	22	16	端末各社の出荷計画	50
6.2.	欧州	22	17	製品在庫状況	51
6.3.	北米	22			

## 2007年3Qの世界の携帯電話市場概

### 加入者数推移

3Qの新規加入は過去最高の加入件数を記録した。2007年末は31億件の突破が確実の情勢になった。2007年の年間新規加入件数は2006年の加入水準を大きく上回る見通しである。

新規加入を牽引しているのはインドなど新興国で、通信コストの引き下げ、端末コストの低下も加入を促進する背景になっている。

方式別では成熟国で次世代への移行が鮮明になり、中でも出遅れていた米国のWCDMAシフトが年半ば以降顕在化した。CDMAは次世代移行と中南米におけるGSM転換で劣勢に立たされていたが、3QではインドのCDMA

が急速な伸びを示し、CDMA 全体の新規加入は増加に転じた。

1999 年から 2006 年まで新規加入をリードした中国に替ってインドが新規加入の最大国になってくる。2008 年以降普及率からみて、当分インドの時代が続くものとみられる。

インドでは GSM と CDMA サービスが競合しているが、3Q では CDMA が低価格サービスを武器に大幅な新規加入を獲得した。ブラジル同様インドでも GSM シフトが予想されていたが、加入状況をみ限り当面並行した競合が続く見通しである。

BRICs もようやく次世代への転換を進め始めた。ロシアは Megafon が St Petersburg で年内に UMTS サービスを開始する。中国は TD-SCDMA を先行させており、2007 年内には北京全域をカバーする。TD-SCDMA の普及一巡後 WCDMA、EVDO の認可を与えるものとみられる。ブラジルは 12 月に 3G の入札を行なう予定で、商用サービスは 2008 年後半に開始される見通しである。インドも 2008 年には 3G をスタートさせたい考えである。ワールドワイドの加入全体の 3 分の 1 を占める BRICs4 カ国が次世代への転換を本格化すれば、端末の買い替え需要など新たな市場創出が期待される。

## 端末需要

3Q の端末需要は新規需要と買い替え需要が堅調に推移した。方式では WCDMA、EVDO が現行世代からのリプレースから需要を伸ばした。GSM へのシフトと EVDO への移行から頭打ちが続いた CDMA はインドでの新規需要が急拡大し販売数量は上向いた。

端末メーカーは Nokia がローエンド分野で出荷を伸ばし、端末シェアは 39%に達した。4Q も出荷拡大が予想されることから 40%の大台を越えることが確実視される。

Nokia と並んで大幅に端末販売を増加したのが Samsung で、2Q に続いて Motorola の端末販売量を上回った。Motorola は ODM モデルを続々と投入し、販売台数は 2Q に対し上回った。ただ 3Q は自社開発モデルよりも、ODM 製品に依存したため収益には結びつかず、端末部門は赤字を継続した。

Sony Ericsson は販売金額を前期に対してフラットで推移したものの、3Q の端末部門収益率は前期よりも収益性は改善した。

上位 4 社が 2Q よりも業績は上向いたのに対して、LG の 3Q の端末業績は急落した。3Q の端末部門は売上、営業利益とも前期を下回り、端末収益率は再び 1 桁台に下降した。LG の不振は WCDMA の低迷と中国ローカルによる CDMA 端末の安値攻勢に晒されたことが業績不振の背景になっている。

6 月末に販売を開始した注目モデル iPhone は 3Q で 110 万台前後を販売したもようである。11 月からは欧州で販売をスタートさせる。英国は O2、ドイツは T-Mobile、フランスは Orange と販売契約を結び 11 月から発売を開始する。すべて EGDE 対応のモデルになる。アジアではオーストラリア Telstra と iPhone の供給について話し合いが始まった。

iPhone に対抗して端末各社もタッチスクリーンモデルを投入する。LG は米国 Verizon 向けにタッチスクリーン Voyager(VX10000)、Venus(VX8800)2 機種を供給、11 月中に販売をスタートさせる。両機種とも iPhone に比べて安価な価格を設定している。米国 SprintNextel 向けに台湾 HTC もタッチスクリーンモデル Touch を 11 月初めに発売を開始する。

4Q のクリスマス商戦におけるタッチスクリーンの評価は注目に値し、販売動向次第では今後のハイエンドのモデルイメージを決定する可能性も秘めている。最大手 Nokia も 2008 年に Symbian 60 シリーズのタッチスクリーンモデルのリリースを発表している。

前回の報告書(8月6日)に記載した Qualcomm、Broadcom との間のパテント訴訟問題は急転直下 Qualcomm サイドの逆転勝訴になった。6月米国 ITC は Qualcomm に対して Broadcom のパテントを含む EVDO、WCDMA 端末

の輸入禁止措置を決定したが、9月半ば端末メーカー、AT&Tなどのアピールを受け、9月連邦裁判所により否決され、ITCの輸入禁止の裁定が覆った。ただ上訴していた端末メーカー、オペレータのみの対象でQualcomm自体の輸入分については対象外となっている。